

生産者やJA、市場関係者など約30名が参加 春キャベツの収穫を控え、キャベツ目揃会を開催



▲『白神キャベツ』ブランドの更なる向上を目指す

J Aキャベツ部会（工藤武一郎部会長）は、収穫期を前に市場動向や出荷体制の確認等を行うため、6月7日にキャベツ目揃会を開催しました。

今年は春先の低温や干ばつの影響で、キャベツの生育はやや停滞しており、収穫に向けて担当者から、水管理や病害虫対策等が呼びかけられました。また市場関係者は「青果物の単価が上昇しているの、端境期に向けた平準的な出荷を心掛けてほしい。」と話しました。

そのあとJAから出荷規格に関する説明が行われ、参加者は適期収穫と規格順守を確かめました。



病害虫の発生未然防止に向け、対策を検討 高品質みょうがの収穫に向け、栽培管理を確認



▲早め早めの防除を呼びかける担当者

主力作物である白神みょうがの栽培講習会が、6月28日に能代市工業団地交流会館で開催され、生育状況や今後の管理について理解を深めました。

講習会には生産者約40名が参加。今年は春先の低温等により、生育は1週間ほど遅れている印象ですが、草丈や葉数等は平年並で、やや高温障害の被害が見られています。担当者は「花芽分化する7月中旬頃に追肥を行い、今後は温度が上がり降雨で湿度が高くなるので、根茎腐敗病や葉枯病、軟腐病など病害虫防除に努めてほしい。」と呼びかけていました。



青年部員等が、農家の労力軽減を図る 不要になった廃プラスチックを、JAが代行処理



▲たくさんの方からご利用頂きました

農家から廃棄予定のプラスチック等を回収し、JAが代行処理申請を行う取組みが、6月29日に各営農センターで行われました。

この取り組みは、環境保全等を目的に年数回行われており、当日はJA青年部員やJA職員が、農家からの処理委託に対応しました。営農センターには、育苗に使用した『だし』やビニール袋が次々と運び込まれ、全体で58名・合計5tが処理委託されました。利用者は、「手間が省けたので、そのぶん他作物に手をかけることが出来ます。」と喜んでいました。次回の回収は11月を予定しています。

